

第15回 核データ・グループ会合議事録

日 時 昭和43年2月1日(木) 1:00~5:30

場 所 原研 東京本部 第2会議室

出席者 田中, 片瀬, 西村, 鹿取, 村田, 若林, 五十嵐, 神田, 中島(竜)
井出野, 更田, 岡本, 大野, 中村, 八谷, 中島(豊)(議長)
浅見(書記)

議 題

1 前回議事録確認(更田)

訂正: 雑誌分担でCINDA関係は岡本氏になっていぬが, CINDA関係者
全員で分担することにする。

2 報告事項

(1) 計算関係

○ Al, Fe, Cuの核反応についての evaluation (神田)

$^{27}\text{Al}(n, \alpha)^{24}\text{Na}$ に関し, 配布資料にもとずいて説明
fitting 操作について質疑応答

○ RACY(中村)

$^{142}\text{Ce}(p, \gamma)^{143}\text{Pr}$, $^{23}\text{Na}(n, \gamma)^{24}\text{Na}$ の計算例について説明

(2) 中性子断面積研究会について(五十嵐, 更田)

研究会の概要について説明, とくに「パネル, ティスカッション」の際
に多数の人に発言して欲しい旨の要望があり, そのやり方について討論が
行われ, 自由討論形式の方がよいなどの意見が出た。

(3) 42年度予算(中島(竜))

予算に若干余裕があるので, サブ・グループ会合などを開くことができ
る。希望があったら中島(竜)氏に申し出ること。

(4) Washington Conf(中島(竜))

中島(竜)氏が出席することになった。もう1人行けるかも知れぬ。

3 43年度計画

43年度の予算請求の概要について五十嵐氏より説明があった後、具体的な計画についての討論を行った。(以下主な意見の要点のみを列挙する。)

- phase shift analysis を automatic に行うプログラムが欲しい(鹿取)
- non local 関係は前回の議事録にある形でやりたい(五十嵐)
- 非弾性 γ のスペクトルの analysis code (中島(竜))
- multilevel analysis の code はもらえる可能性がある。(五十嵐)
- code の必要性を考えると①必要だから ②いずれ必要になるから ③やる人がいるからの3点から検討すべきである。(五十嵐, 更田)
- ELIESE に compound elastic を含めた automatic search のでるプログラムを実験屋の立場から欲しい。(田中)
- P-wave 以上について Doppler 効果を含めた解析。(西村)
- STEVE に γ の競走過程を入れる。(八谷)
- COMFORD を利用するプログラム(更田)
- コードの合成

以上の意見の結果、予算との問題を考慮して43年度には phase shift analysis, KeV 領域での Doppler effect を含めた analysis の計画をすゝめることにし、勉強会を早急に始める。multilevel analysis については炉定数グループでやってもらえるか打診することになった。

43年度予算としては、計算費としてとりあえず

Phase shift analysis	50万円
KeV 領域での analysis	50万円
COMFORD 関係	50万円
ELIESE 修正 non local etc	50万円

合計200万円ということにし、細かくは予算が確定してから決めることになった。既存の code を使って data の production をもっとやるべきであるとの意見があり(片瀬), これまでやられた data production のうち transmission coefficient table U^{238} の inela の evaluation ($n, 2n$)・($n \cdot \gamma$) 反応の evaluation について討論が行われた。

4 その他

中島(竜)氏より提案があり、プログラムの勉強会及び炉定数グループと合同勉強会をそれぞれ西村氏, 五十嵐氏に検討してもらうことになった。今回は議長中村氏, 書記田中氏により3月31日(水)東京で行うことになった。